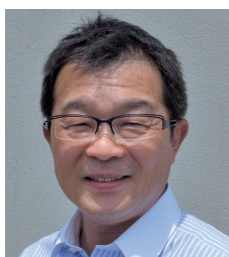




## 松江市の少年野球の主要大会に成長した 新人大会を継続実施

### 松江遊技業防犯協会 (島根県遊技業協同組合)

#### 「松江遊技業防犯協会杯 学童野球新人大会」事業



松江遊技業防犯協会  
会長  
徳田泰幸さん

#### 選考理由

「学童野球大会」を主催し、「松江遊技杯」を贈り続けて16年。資金提供にとどまらず、組合員自ら、出場チームの取りまとめ、用具や表彰状の準備、組み合わせ抽選会の実施などにあたる。市軟式野球連盟に依頼して行う開・閉会式を含む試合運営(参加22チーム、実施日3日間)にも参加して、出場児童の保護者(500名)の協力を得ながら実施している。青少年健全育成をテーマとする地道なこの事業が、地域住民との交流、住民同士の連携、地域の活力を生み出す力となっている。その意味でも継続されているこの事業の果たす役割は大きい。

社会貢献活動審査委員会  
委員  
松尾 守人氏



### 5年生以下のデビュー戦となる 新人大会を2001年から毎年主催

様々な現場で、“デビュー”と言われる事象がある。少年スポーツの場合、なかでも野球やサッカーといった団体競技では、いわゆる“新人戦”がそれにあたるだろう。レギュラーになることの多い最終学年の児童や生徒が夏の大会後に抜け、新チームとしてスタートしたばかりの秋に行われる新人戦は、後輩たちにとっての文字通りのデビュー戦となる。

そのデビュー戦の場を提供する事業として2001年から毎年秋に島根県松江市で実施されているのが、「松江遊技業防犯協会杯学童野球新人大会」である。大会名からもわかるように、この事業を主催しているのは島根県遊技業協同組合(以下、島遊協)傘下の松江遊技業防犯協会(以下、協会)である。昨年、その第16回目となる大会が開催され、松江市や隠岐地域の学童(小学生)野球チーム22チーム、計323名が参加した。

「そもそも野球を通しての青少年健全育成と地域間交流・親睦を目的に当時の会長の発案で始まったと聞いています。最初は松江市内の14チーム、選手268名でスタートし、2010年から隠岐地域のチームも加わるようになりました。これまで、のべ390チーム、約6300名の小学生が参加しています。30チーム以上が参加した年もありますが、少子化などもあり、参加チームはやや減りました。それでも大会運営にあたる主管の松江市軟式野球連盟からは、主要大会のひとつとして位置づけられています」と、島遊



毎年秋に開催されている「松江遊技業防犯協会杯学童野球新人大会」



松江市や隠岐地域の学童(小学生)野球チーム22チーム、計323名が参加



保護者の応援も加わり大会は大いに盛り上がる

協及び防犯協会の専務理事を務める足立暢夫さんは、大会の経緯についてそう話す。

### 軟式野球連盟や保護者の協力を得て 大会の準備に組合自ら汗をかく

協力が主体となり、ゼロの状態から作り上げてきた大会だが、その準備は毎年8月半ばにスタートする。まず協会会長、副会長、組合事務局、松江市軟式野球連盟の担当者が集まり、実施日程や運営方針などについて打ち合わせし、参加案内の作成・送付、応募受付を行い、9月には組み合わせ抽選会、選手登録、大会プログラムの作成などを行う。さらに大会直前には賞状・賞品・記念品・ボールなどの準備、後援の山陰中央新報社「山陰中央新報」での告知、さらに大会前日・当日には会場準備なども行う。なお、大会当日の運営は松江市軟式野球連盟が保護者の協力を得て行っている。

昨年の大会は、10月29日、30日、11月3日の3日間行われたが、開会式、1回戦の一部、準決勝、決勝は松江市営野球場、このほか4つの野球場を利用しての開催となった。開会式後の始球式は、来賓である松江警察署署長が行った。日頃の練習や練習試合などでは松江市営野球場のような本格的な設備の野球場を使用する機会がめったにないため、参加する子どもたちにとっては、まさに夢舞台。新チームのデビュー戦という興奮や緊張に、保護者の熱い応援も加わり、大会は大いに盛り上がるという。

「6年生が多いチームは、それがごっそり抜けた後、新しいチームの編成に苦労しているところもある。また、最近では少子化の影響で単独チームでの参加が難しくなりつつあり、合同での参加も認めています」と、足立専務理事。また、隠岐地域からの参加は船による往復となるため、苦労も多いと言うが、夏休みなどは松江市内のチームのメンバーが隠岐の島に遊びに行くなどの交流も見られるという。「地域の子供たちが日頃の頑張りを発揮する場を提供し続けるために汗をかくという、支部組合レベルでの社会貢献を継続していく」と話す。